

日本保育者養成教育学会

The Japanese Society for the Study on Hoikusha Education

第5回研究大会 プログラム

大会テーマ：「ポスト・コロナ」時代の保育者養成教育をどう描くのか
～コロナ禍をきっかけに顕在化した保育者養成教育の在り方を見つめて

日時：令和3年3月4日（木）

会場：WEB開催

目次

日本保育者養成教育学会 第5回研究大会の開催にあたって……………	1
----------------------------------	---

大会参加者の方へ

大会スケジュール……………	2
---------------	---

大会に参加される皆様へ……………	3
------------------	---

各セッションの紹介

大会企画シンポジウム……………	6
-----------------	---

口頭発表……………	8
-----------	---

ポスター発表……………	11
-------------	----

日本保育者養成教育学会 第5回研究大会の開催にあたって

大会テーマ：「ポスト・コロナ」時代の保育者養成教育をどう描くのか

～コロナ禍をきっかけに顕在化した保育者養成教育の在り方を見つめて

私たちは今、コロナ禍において、養成教育の在り方、とりわけ「実習」を巡る在り方やひいては保育者養成（や育成）において「専門性」養成をどう捉えるのかという在り方を巡って、一つの転換点を迎えてしまっているのではないか、という危惧がある。

私たち養成者（指定養成施設）の団体である全国保育士養成協議会は、養成課程における「実習」の重要性をこれまで指摘し、研究を重ね・出版物（ミニマムスタンダード）まで発刊してきた。また私たち養成者（校）は、中教審や文科省の主導によるとはいえ、アクティブラーニングを授業方法として積極的に取り入れ、免許・資格の再課程認定に伴うコアカリキュラムにおける各「領域」の指導法においては「模擬保育」を位置づけることを、ほぼ何の議論もなく「是」として受け入れてもきた。

にもかかわらず、例えば、文部科学省や厚生労働省はコロナ禍における実習を巡る対応について通知を発出した。「実習」を巡り、時間数の読み替えや演習による代替え措置等、実際にこれまで求めてきた「実習」を実施しなくとも「実習」したこととして認められることを可能とするそれである。あるいは、数回にわたって時の文科相が、新型コロナウイルスの影響でオンライン授業が続く大学に対し、あらためて対面授業の実施を求める発言をしたように、大学等における「学び」が未だリモートに多くを依拠し続けている状況も決して少なくはない。

「専門性」の養成をどう考え、その「専門性」や「専門職性」が現況、社会においてどう認知されているのか。さらには今後、保育者の処遇等も含めどう位置づけられていく可能性があるのか。そのことが、改めてコロナ禍のもとで顕わになってきていると思わざるを得ない。換言すれば「専門性」や「専門職性」養成において、「実習」やいわゆる「密」と指弾される「対面」による学びの経験が、養成プロセスにおいて実施されなくても資格取得においては構わない（「軽減」や「代替え」が可能であるという議論は、すなわち必要不可欠であるという議論ではない）ということ論理的に招来してしまうという点を、やはり私たちは重く受け止める必要があるだろう。

確かに、こうした状況は今だけの「特別」な状況であり、コロナが収束すれば「元」に戻るのかもしれない。しかし、仮に今年度が「特別」であったとしても、同様の状況下におかれた日本看護系大学協議会が令和2年8月25日付で「新型コロナウイルス感染症拡大の影響により臨地実習に影響を受けた令和3年度新人看護職研修の支援に関する要望書」を厚生労働省に提出している厳然たる事実と比較すれば、その「特別」、すなわち期間の軽減された「実習」、あるいは子どもがいない・保育現場でもない養成校における授業による代替、対面型授業をほぼ排したりリモートによる「指導法」の授業等々で就職せざるを得なかった令和3年度に卒業した保育者に対し、それを補う研修が実施されて然るべきであり、予算措置を含めたそうした体制整備を行うべきであるということ、未だ態度表明し得ていない、という事実を保育者養成の当事者として受け止める必要があると私は思っている。

今回のテーマを「『ポスト・コロナ』時代の保育者養成教育をどう描くのか～コロナ禍をきっかけに顕在化した保育者養成教育の在り方を見つめて」としたのは、こうした問題意識による。

残念ながら、今回の大会においても会員諸氏が実際に参集し実施することは昨年度の大会に続き、断念せざるを得ない。しかし、そのような中でも当日は、こうした観点から「コロナ禍の実習の現状」について調査を実施されてきた、全国私立保育園連盟、全国保育士養成協議会から、また、実際に最大限実習の実施を模索しようとされた養成校にご登壇いただき、養成教育における実習教育についてオンラインによるシンポジウムを予定している。また学会としては、今回は会員諸氏の発表の場もオンライン上ではあるが確保させていただいた。制約がある中でも活発な議論を期待したいと思っている。

どうぞ、みなさんご参加をお待ちしております。

日本保育者養成教育学会第5回研究大会 実行委員長 大妻女子大学 岡 健

大会参加者の方へ

【大会スケジュール】

時刻	オンライン(zoom)			ホームページ 3/4-3/14
10:00	10:00~10:20 開 会 式			ポスター発表
10:30	10:30~12:00 シ ン ポ ジ ウ ム			
10:30				
12:00				
13:00	第1セッション (13:00~14:45)			
	口 頭 発 表 A 、 1	口 頭 発 表 B 、 1	口 頭 発 表 C D	
14:00				
	(OA11-OA14)	(OB11-OB14)	(OC11-12) (OD11-13)	
14:30				
14:45				
15:00	第2セッション (15:00~16:30)			
	口 頭 発 表 A 、 2	口 頭 発 表 B 、 2		
16:00				
17:00	(OA21-OA24)	(OB21-OB24)		

○研究発表につきましては、発表の成立条件および注意事項をよくご参照ください。

大会に参加される皆様へ

1. 予約申込者

本大会は、オンラインで開催するため、予約参加のみとなっております。ZoomのIDおよびPWにつきましては、約一週間前に大会ホームページにてお知らせいたします。なお、Zoom名は（氏名（所属））としてください。

2. 当日参加申込者

今大会では、当日参加申込を受けつけておりません。

3. 発表・シンポジウム等の録音・録画・撮影

発表およびシンポジウム等の録音・録画・撮影につきましては、著作権および肖像権の保護のため、ご遠慮下さい。

研究発表のご案内

【研究発表の成立条件】

- ① 口頭発表は、「口頭での発表」「討論への参加」「要旨集への要旨の掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。また、発表者は分科会終了前に退席することはできません。
- ② ポスター発表は、「ポスターでの発表」「要旨集への要旨の掲載」の条件を満たすことで正式発表と認められます。
- ③ 筆頭発表者がやむをえない理由で発表ができなくなり連名発表者がいる場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者（他の発表で筆頭発表者となっていない者）が筆頭発表者となることができます（筆頭発表者の交代）。事前の届け出と手続きが完了しなければ、取り下げおよび交代は無効です。

* 以上に反することが確認された発表は、『発表取り消し』となる場合があります。

【口頭発表要領】

1. 発表時間は、1件につき発表時間12分、質疑応答3分の15分となります。なお、すべての発表終了後、30分の討論時間があります。
2. 今回の口頭発表は、すべてオンライン会議システム Zoom を使用します。必ず事前にインストールを行ってください(すでにインストールがお済の方につきましても必ず最新版にアップデートを行ってください)。発表者は、セッション開始10分前までに、セッション会場へアクセスしてください。
3. 大会開催の1週間前に、大会ホームページ上に事務局より Zoom の URL とパスワードを掲載いたします。パスワードは発表会場へ入るときに入力が必要となります。なお、Zoom の接続や発表資料の共有の事前確認が必要な発表者につきましては、3月3日(水)に接続テストならびに簡単なオリエンテーションを行います。
4. インターネットは有線接続を推奨しております。不安定な接続環境ですと、画質の低下や、映像や音声途切れる等の影響を及ぼすことがあります。
5. 発表資料は、「画面の共有」により、共有することができます。また、動画の再生はご遠慮願います。なお、映像や再生等に関するトラブルに関しては、当方では責任を負いかねますことをご承知の上、ご自身の責任下でスライドをご作成下さい。
6. 座長等の指示のもと、発表順に従い、口頭発表を行います。
7. 筆頭発表者が欠席した場合および分科会終了前に在籍が確認できなかった場合は、原則的に「発表取り消し」となります。ただし、連名発表者がいる場合は、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者(他の発表で筆頭発表者となっていない者)が筆頭発表者として変更することができます。筆頭発表者の欠席や変更・連名発表者の欠席等につきましては、会期前は大会運営事務局に、会期中は当該発表の30分前までに受付にお申し出下さい。
8. Zoom の推奨環境について
○サポートされているオペレーティングシステム
 - ・ macOS X と macOS 10.9 以降
 - ・ Windows 10*

* Windows 10 を実行しているデバイスの場合、Windows 10 Home、Pro、または Enterprise を実行する必要があります。

* S モードはサポートされていません。

- ・ Windows 8 または 8.1
- ・ Windows 7
- ・ Ubuntu 12.04 以降
- ・ Mint 17.1 以降
- ・ Red Hat Enterprise Linux 6.4 以降
- ・ Oracle Linux 6.4 以降
- ・ CentOS 6.4 以降
- ・ Fedora 21 以降
- ・ OpenSUSE 13.2 以降
- ・ ArchLinux (64 ビットのみ)

○サポートされているタブレットとモバイルデバイス

- ・ Surface PRO 2 または Win 8.1 以降

* Windows 10 を実行しているタブレットの場合、Windows 10 Home、Pro、または Enterprise を実行する必要があります。

* S モードはサポートされていません。

- ・ iOS と Android デバイス
- ・ Blackberry デバイス

各セッションの紹介

『ポスト・コロナ』時代の保育者養成教育をどう描くのか

～コロナ禍をきっかけに顕在化した実習教育についての諸課題

企画：岡 健（第5回研究大会実行委員長・大妻女子大学）

シンポジスト：矢藤 誠慈郎（全国保育士養成協議会常務理事・和洋女子大学）

丸山 純（全国私立保育園連盟理事・社会福祉法人そのえだ第2勝田保育園）

井上 真理子（洗足こども短期大学）

コーディネーター：石井 章仁（大妻女子大学）

<企画趣旨>

文部科学省や厚生労働省はコロナ禍における実習を巡る対応について通知を発出した。今、「実習」を巡っては、時間数の読み替えや演習による代替え措置等、実際にこれまで求められてきた「実習」を実施しなくとも「実習」したこととして認められることが可能となっている。

「専門性」の養成をどう考え、その「専門性」や「専門職性」が現況、社会においてどう認知されているのか。さらには今後、保育者の処遇等も含めどう位置づけられていく可能性があるのか。そのことが、改めてコロナ禍のもとで顕在化になっていっている。

仮に今年度が「特別」であったとしても、同様の状況下におかれた日本看護系大学協議会が2020年8月25日付で「新型コロナウイルス感染症拡大の影響により臨地実習に影響を受けた令和3年度新人看護職研修の支援に関する要望書」を厚生労働省に提出している事実と比較すれば、その「特別」、すなわち期間の軽減された「実習」、あるいは子どもがいない・保育現場でもない養成校における授業による代替、対面型授業をほぼ排したリモートによる「指導法」の授業等々で就職せざるを得なかった令和3年度に卒業した保育者に対し、それを補う研修が実施されて然るべきであり、予算措置を含めたそうした体制整備を行うべきであるということ、未だ態度表明し得ていない。

シンポジウムでは、こうした観点から、「コロナ禍の実習の現状」について調査を行った、全国私立保育園連盟、全国保育士養成協議会から、実際に最大限実習をしようとした養成校からのご意見をいただきながら、養成教育の中での実習教育について論議をしていきたい。

今回検討する研修からの知見が、保育現場及び保育者養成教育の向上に活かされることを期待するものである。

○コロナ禍の今、あらためて考える「保育実習」

丸山 純（全国私立保育園連盟）

（公社）全国私立保育園連盟調査部では、昨年4月、6月と連続して新型コロナウイルス感染症に関する調査を行いました。従来から行ってきたことが通用しないコロナ禍に直面しながらも、この機会を、“再考の好機”として取り組んでいる事例に接し、保育現場の力強さを実感しました。

そして今回は、この“再考の好機”と受けとめられている事柄の中から、『保育実習』にスポットをあて『新型コロナウイルス対応から考察する「保育実習」に関する調査』を行いました。

外部との接触を極力避けたい施設としては中止の判断をすべきか、養成校の学生へ学びの場を優先継続すべきなのか…。最終的な可否の判断に関わらず、保育実習受入れの結論に至るまでの期間を含めた対応やさまざまな工夫から各施設が抱えてきた逡巡が見えてきます。

現在も、保育現場は感染拡大防止への対応で緊張感が途切れることのない状況が続いておりますが、この調査結果が従来からの保育実習の在り方を見直す契機となり、多様な人材を育む「新しい保育実習」を考える糸口になれば幸いです。

○養成校の組織的な取り組みのあり方

矢藤誠慈郎（全国保育士養成協議会）

保育者養成課程に対する行政の COVID-19 対応としては、3月に厚労省、4月に文科省が通知等を発出し、8月には文科省が時限的な法改正について示しているところである。実習に限らず通常の学修とは異なる実態を踏まえて、幼稚園教諭について文科省は初任時の研修への配慮を研修の実施主体に求めている。保育士については初任者研修の法定化がなされていないこともあってか、また実習に相当する学修を行っているという前提から、また所管が都道府県ということもあってか、厚労省から特段のアナウンスはない。各地域の養成校が連携して都道府県と相談しながら就職後の研修等について協働を図っていくことが一つの方法だと思われる。

全国保育士養成協議会としては、厚労省通知に関する Q&A の作成や、養成課程運営の実態の調査（2回）、オンライン情報交換会などを行ってきたが、この機会に皆さんの意見等をお聞きしたい。

○現場と養成校の協働による現場経験の可能性を模索する

井上真理子（洗足こども短期大学）

「理論と実践の往還」による保育者養成を本学の教育方針の基本としている。これまで、入学直後から実施する保育環境の見学実習や本実習前の体験実習等を活用し、経験に基づく保育理解を可能とするカリキュラムを組み立ててきた。コロナ禍においては、このような養成教育に制限がかかったことを受け、2020年度の実習の状況は、全実習の期間をおよそ半分で実施する結果となったが、「理論と実践の往還」の流れを保持することはできた。半減した学習の補填については、現場と養成校との協働による環境理解（本研究大会ポスター発表）など、現場体験に近いオンライン教材を開発した。実践者養成において現場経験が効果的な学びであることは事実だが、一方で、制限下における新たな教育方法を現場との協働により模索することも必至である。さらには、現状を踏まえた新人育成の課題も、これまで以上に現場と養成校が協働し、共通課題として認識する必要がある。

口頭発表 A-1. 保育者の専門性など

13:00~14:30

座長: 吉田直哉・山田秀江

時刻	発表ID			
13:00	OA11	榎沢良彦による現象学的保育者論における関係論	大阪府立大学大学院	吉田 直哉
13:15	OA12	現代日本の「保育省察論」における時制論的側面 —秋田喜代美を中心に—	郡山女子大学短期大学部 大阪府立大学大学院	○安部 高太郎 吉田 直哉
13:30	OA13	特別支援教育に関する現職研修の意義と課題	四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学	○金川 朋子 山田 秀江 長谷 秀揮 木村 美佳 森 麻希子
13:45	OA14	保育における世代間交流に関する調査・研究	四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学	○山田 秀江 金川 朋子 長谷 秀揮 木村 美佳 森 麻希子

討論14:00~14:30

口頭発表 B-1. 保育内容と方法、授業研究など

13:00~14:30

座長: 小原敏郎・四家昌博

時刻	発表ID			
13:00	OB11	保育者養成校が行う保育・子育て支援活動に参加する 学生の記録 I ～ストーリーパークによる ICT 活用実践を通して～	共立女子大学	小原 敏郎
13:15	OB12	子どもの自由な表現を引き出す援助に関する事例研究		三原 勇気
13:30	OB13	保育者養成校における領域「表現」の遠隔授業の取り組み —ピアノと造形関連の実技系授業の事例—	仙台白百合女子大学 仙台白百合女子大学	○四家 昌博 千 凡晋
13:45	OB14	幼児教育・保育の現場で活用できる総合的な表現活動の プログラムの開発に向けて —授業実践と保育者を対象とするアンケートを通して—	仙台白百合女子大学 仙台白百合女子大学 仙台白百合女子大学	○千 凡晋 四家 昌博 仁藤 喜久子

討論14:15~14:30

口頭発表 C. 保育実習・教育実習、実習指導など
D. 授業研究など

13:00～14:45

座長: 櫻井 裕介・若山育代

時刻	発表ID			
13:00	OC11	保育現場における実習生が求める指導法の実 ～学生を対象としたオンラインアンケート結果から～	東京立正短期大学 東京立正短期大学	○村山 久美 鈴木 健史
13:15	OC12	コロナ禍における学内保育所実習の取り組み	中村学園大学短期大学部 中村学園大学短期大学部	○櫻井 裕介 川俣 沙織
13:30	OD11	保育専攻学生のカリキュラム・マネジメントに関する知識 —カリキュラム・マネジメントの講義後の評価—	富山大学 松蔭大学 武庫川女子大学短期大学部 日本女子体育大学 和洋女子大学 共立女子大学 白百合女子大学 日本体育大学	○若山 育代 後田 紀子 小尾 麻希子 桐川 敦子 佐藤 有香 新家 智子 日良 秋子 若尾 良徳
13:45	OD12	保育内容環境における園外保育に関する授業開発	北翔大学短期大学部	菊地 達夫
14:00	OD13	講義型授業とロールプレイング形式授業の比較 —テキストマイニングによる接続課題をテーマとした 授業分析—	東京福祉大学	後藤 泰博

討論14:15～14:45

口頭発表 A-2. 保育者の専門性など

15:00~16:30

座長: 吉田龍宏・日笠みどり

時刻	発表ID	発表内容	発表者	発表者所属	発表者所属
15:00	OA21	集団保育において全ての個の理解を可能にする条件は何か(1) —「遊び保育論」(小川博久)の重要性—	○吉田 龍宏 岩田 遵子 山田 祥子 鈴木 まり	名古屋学院大学 東京都市大学 美和こども園 美和こども園	
15:15	OA22	集団保育において全ての個の理解を可能にする条件は何か(2) 保育者の俯瞰する眼差しの意義	○岩田 遵子 吉田 龍宏 山田 祥子 鈴木 まり	東京都市大学 美和こども園 美和こども園 美和こども園	
15:30	OA23	保育者の表現力を高めるドラマの手法—ヒッチハイカー—	日笠 みどり	関西保育福祉専門学校	
15:45	OA24	幼少期の遊び経験と成人後の困難な課題に対する対処方法との関わりについて —困難な出来事の実処方略における質的分析—	佐藤 那美	聖セシリア女子短期大学	

討論16:00~16:30

口頭発表 B-2. 保育内容と方法、授業研究など

15:00~16:30

座長: 児島輝美・末次絵里子

時刻	発表ID	発表内容	発表者	発表者所属	発表者所属
15:00	OB21	インターネットで配信される創作手遊び歌の変化について —保育教材としての検討—	児嶋 輝美	徳島文理大学短期大学部	
15:15	OB22	『幼児を対象とした多様性理解のための教育ツール』を活用した保育実践に対する保育者養成学生の有効性評価	○嶋崎 博嗣 北尾 岳夫 大和 晴行 小島 栄希	東洋大学 滋賀短期大学 武庫川女子大学 ベル・フラワー保育園	
15:30	OB23	円形から線の出る描画が表す子どもの心理的発達 —事例の検討を通して—	末次 絵里子	大阪国際大学短期大学部	
15:45	OB24	欧米の読み聞かせの経験が学生の保育観に与える影響	峰本 義明	新潟青陵大学短期大学部	

討論16:00~16:30

ポスター発表 A. 保育者の専門性など

発表ID

PA101	2年制保育者養成校における3ポリシーの検討 — 本学における各授業の目標とディプロマポリシー（学習成果）との関連について —	仁愛女子短期大学幼児教育学科 仁愛女子短期大学生生活科学学科 仁愛女子短期大学幼児教育学科	○松川 恵子 田中 洋一 香月 拓
PA102	2年制保育者養成校における3ポリシーの検討 — アドミッション・ポリシーと高校の学びとの関連について —	仁愛女子短期大学幼児教育学科 仁愛女子短期大学生生活科学学科 仁愛女子短期大学幼児教育学科	○香月 拓 田中 洋一 松川 恵子
PA103	1960年代～1970年代の領域「自然」における保育者の専門性 「教育の現代化」との関連から	青山学院大学	福元 真由美
PA104	病棟保育士の療育活動について — 口腔機能訓練（口遊び）を導入するための調査研究 —	宮城誠真短期大学	小玉 幸助
PA105	多文化保育における保育者の「困り感」と研修モデル	神戸松蔭女子学院大学 大妻女子大学 四天王寺大学短期大学部 日本福祉大学 九州ルーテル学院大学	○林 悠子 石井 章仁 韓 在熙 松山 有美 三井 真紀
PA106	オンライン授業における学習成果の検討 — シラバスの到達目標と授業評価アンケートの結果から —	フェリシアこども短期大学 フェリシアこども短期大学	○中村 麻衣子 入江 和夫
PA107	保育者養成における性教育の位置づけに関する考察	新島学園短期大学	小菅 ゆみ
PA108	保育者養成課程における保育知識力・実践力・基礎力 — 横断的調査からみた特徴 —	高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学	○今井 邦枝 山西 加織 岡本 拓子
PA109	保育者養成校学生が考えるコロナ禍の幼児の姿と保育者の役割	豊岡短期大学 松本短期大学	○前川 洋子 山藤 宏子
PA110	「保育の評価」に関わる視点の獲得 — 体験型実習と免許に関わる実習での学びと相違点 —	田園調布学園大学 田園調布学園大学	○内藤 知美 横尾 暁子
PA111	子どもの資質・能力を育む保育者の養成 — 身近な「くらし」に関する学生の意識調査 —	中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学	○野中 千都 那須 信樹 吉川 寿美 倉原 弘子
PA112	特別な配慮を必要とする子どもの支援に特化した教職員（支援員等）の活用の実態と課題	浜松学院大学短期大学部 こども教育宝仙大学	○甲賀 崇史 守 巧
PA113	乳児保育の質の向上に繋がる研修会に関する検討 — コロナ禍の経験から、今後の研修会の在り方を考える —	北翔大学短期大学部こども学科	小林 美花
PA114	教職・保育実践演習における心理劇・ロールプレイングによるPBL — 課題探索と対応の検討 —	武蔵野大学	義永 睦子

ポスター発表 B. 保育内容と方法、授業研究など

発表ID

PB101	教職実践演習一劇発表の取り組みを通して一	華頂短期大学	鈴木 えり子
PB102	認定こども園・保育所職員オンライン研修の効果 一講座振り返りコメントのテキストマイニング分析から一	名古屋柳城女子大学 おおぞら認定こども園 NPO法人ポノポクラブ 筑波研究学園専門学校	○小野 隆 清水 寛子 岡田 繁雄 岡田 ひろみ
PB103	保育者養成校における在籍する学生の実習経験の差異が運動あそびのイメージに及ぼす影響	名古屋柳城短期大学 東海学園大学	○菊池 理恵 水落 洋志
PB104	保育者養成校における遠隔（オンデマンド）授業によるスプラウト水耕栽培の実践と課題	鶴見大学短期大学部・ 国際校庭園庭連合日本支部	仙田 考
PB105	乳児との関わりを想定した教材作成と授業実践の効果一タオル人形で実践を行った学生の回答からの分析一	岡崎女子大学 岡崎女子大学 岡崎女子短期大学 岡崎女子短期大学	○水野 恭子 岸本 美紀 野田 美樹 渡部 努
PB106	アフターコロナにおける領域「表現」の展望 一オンライン授業で浮かび上がる学生の「表現」の特性一	聖心女子大学 聖心女子大学	○杉原 真晃 今川 恭子
PB107	保育者養成における学修者の課題探求につながる教材の検討 ～野菜を栽培する試みとICTの活用～	東京女子体育短期大学 東京女子体育短期大学	○土井 晶子 村石 理恵子
PB108	幼児の基本的な生活習慣の獲得における保育学生の意識について 一テキストマイニングを用いた分析から一	宮崎国際大学 宮崎学園短期大学	○城戸 佐智子 高妻 弘子
PB109	遠隔によるピアノ弾き歌い指導の実践的考察 一KH Corderを用いた計量テキスト分析を通して一	常磐短期大学 聖学院大学・非 常磐大学・非	○鈴木 範之 阪 まどか 藤岡 由記
PB110	保育者養成における数と形に関する模擬授業内容と数学的意義の検討	東京経営短期大学 茨城キリスト教大学	○佐々木 郁子 佐々木 隆宏
PB111	「コロナ禍」から「ポスト・コロナ」時代のディプロマポリシーからスタートする専門職養成に関する一考察 一カリキュラムマネジメントを踏まえた保育教育実践一	川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学	○笹川 拓也 橋本 勇人 尾崎 公彦 中川 智之 入江 慶太 藤澤 智子 岡正 寛子
PB112	音と動きを伴う表現活動のポートフォリオ	名古屋柳城女子大学 愛知学泉短期大学	○野田 さとみ 本多 峰和
PB113	小・中学校体育と幼児運動あそびの内容に関する一考察 一領域(健康・身体表現)から教科「体育」への連続性に関する内容分析一	筑波研究学園専門学校	森崎 正幸

ポスター発表 C. 保育実習・教育実習、実習指導など

発表ID

PC101	保育系学生による部分実習の意義 ～保育所・幼稚園においての絵本の読み聞かせを中心に～	愛知東邦大学	鈴木 順子
PC102	保育者をめざす学生の資質と力量に関する実習教育の検討⑤ ～実習における子ども主体の保育計画の作成について～	美作大学短期大学部	岡本 美幸
PC103	就学前施設と養成校の協同による保育者養成	洗足こども短期大学 洗足こども短期大学 洗足こども短期大学 洗足こども短期大学 玉川大学・東一の江幼稚園	○伊藤 路香 井上 眞理子 上田 よう子 高橋 優子 田澤 里喜
PC104	教育実習における養成校の実態と意識 I ～教育実習についての実態調査～	東北文教大学 羽陽学園短期大学 聖和学園短期大学 東北福祉大学 仙台白百合女子大学	○福田 真一 大関 嘉成 石森 真由子 日野 さくら 三浦 主博
PC105	教育実習における養成校の実態と意識 II ～教育実習と保育実習の比較～	羽陽学園短期大学 東北文教大学 聖和学園短期大学 東北福祉大学 仙台白百合女子大学	○大関 嘉成 福田 真一 石森 真由子 日野 さくら 三浦 主博
PC106	ドキュメンテーション型実習日誌における写真のもたらす効果	玉川大学教育学部 玉川大学教育学部 玉川大学教育学部 玉川大学教育学部 玉川大学教育学部	○岩田 恵子 大豆生田啓友 鈴木 美枝子 田澤 里喜 田甫 綾野
PC107	保育者養成校1年生の観察実習における学び	彰栄保育福祉専門学校	野見山 直子
PC108	保育・教育実習評価の関連要因の検討⑥ ～内的作業モデルと教育実習評価との関連から～	愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学	○朴 賢晶 国藤 眞理子
PC109	実習生・保育士・養成校教員の実習に対する語りの分析 ～同一実習における3者の語りの共通点・相違点に着目して～	江戸川大学 宇都宮共和大学 東京立正短期大学 川村学園女子大学	○村上 涼 今村 麻子 鈴木 健史 江村 綾野
PC110	保育・教育実習記録の内容深化に関する研究(4)	安田女子短期大学 安田女子短期大学	○橋本 信子 中村 涼
PC111	4年制大学における1年生の観察実習から指導計画立案へ及ぼす効果に関する研究	東京家政大学	前田 和代
PC112	学内保育実習のあり方に関する実践研究	愛知学泉短期大学 愛知学泉短期大学	○児玉 珠美 太田 美鈴
PC113	保育実習I(施設)への想いII ～実習指導における学生の気持ちの動きを知る～	東大阪大学短期大学部	野崎 之暢
PC114	コロナ禍の保育～実習訪問からわかったこと～	大阪樟蔭女子大学児童教育学部児童教育学科	中山 美佐
PC115	保育者養成課程の学びにおける学生の困難感 ～学外実習の事前事後アンケート分析による検討～	富山福祉短期大学	宮越 浩子
PC116	保育実習における実習評価に関する検討	横浜創英大学 横浜創英大学 横浜創英大学	○福田 真奈 長谷川 直子 相賀 頌子

ポスター発表 C. 保育実習・教育実習、実習指導など

発表ID

PC117	保育者養成校と現場が協働して行う実習を目指して（5）	相愛大学 相愛大学 相愛大学 相愛大学	○松島 京 曲田 映世 直島 正樹 中西 利恵
PC118	効果的な実習訪問指導—学生と教員の人間関係構築の視点から—	大阪千代田短期大学 東大阪大学	○寄 ゆかり 今井 美樹
PC119	コロナ禍の状況下における保育実習の実態について	宇部フロンティア大学短期大学部 椋山女学園大学 名古屋短期大学 桜美林大学 東京成徳短期大学 安田女子大学 椋山女学園大学 椋山女学園大学 宇部フロンティア大学短期大学部 宇部フロンティア大学短期大学部 鳴門教育大学 四国大学	○伊藤 一統 伊藤 博美 小島 千恵子 爾 寛明 田中浩二 西川 ひろ子 丹羽 健太郎 朴 信永 甘 麻乃 弘中 陽子 湯地 宏樹 湯地 由美
PC120	コロナ禍の中で保育・教育実習に参加した実習生の感情に焦点をあてて	四国大学	兼間 和美
PC121	代替保育実習Ⅰ（施設）の検討	沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学	○宮平 隆央 糸洲 理子 照屋 建太
PC122	代替保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）の検討	沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学	○糸洲 理子 宮平 隆央 照屋 建太

ポスター発表 D. 授業研究など

発表ID

PD101	コロナ禍での子育て交流会開催と学生の学びについて	京都光華女子大学	和田 幸子
PD102	園庭におけるビオトープづくりの取り組みから「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を指標にした学生の体験的な学び～「言葉による伝え合い」について～	植草学園大学 植草学園短期大学 植草学園大学 文京学院大学 植草学園短期大学	○栗原 ひとみ 植草 一世 金子 功一 金子 智栄子 松原 敬子
PD103	コロナ禍でのオンライン授業についての一考察	尚綱学院大学	東 義也
PD104	子どもの育ちを保障する専門職としての自己形成に関する一考察—「全国保育士会倫理綱領」を視点として—	常磐会学園大学 常磐会学園大学	○岡(宮菌) 美佳 坂口 静子
PD105	保育内容「環境」「言葉」の授業連携における一考察 - 児童文化教材の作成を通して -	香蘭女子短期大学	寺地 亜衣子
PD106	「子どもの食と栄養」授業での知識構成型ジグソー法の試み	相愛大学	進藤 容子
PD107	色覚の多様性を理解し保育にいかす力の育成と課題	神戸海星女子学院大学	森 晴美
PD108	表現作品の制作時における大学生の著作権の認識について	常磐会学園大学 常磐会学園大学 常磐会学園大学	○加藤 達雄 丸井 理恵 笠川 武史
PD109	保育表現指導科目における動画作成を用いた授業展開について	常磐会学園大学 常磐会学園大学 常磐会学園大学	○笠川 武史 丸井 理恵 加藤 達雄
PD110	コロナ禍にある保育者養成校学生のレジリエンスと抑うつ気分の関連について	秋草学園短期大学 秋草学園短期大学	○大熊 美佳子 三好 力
PD111	科目「表現技術の基礎」の意義と課題	目白大学 目白大学	○西田 希 おかもと みわこ
PD112	保育者養成課程における表現活動に関する研究 (4)	相愛大学	曲田 映世
PD113	音楽表現のための読譜力育成の試み2—3度音程に着目した理論と演習の試み—	静岡英和学院大学	内山 尚美
PD114	コロナ禍にある保育者養成校学生の抑うつ気分について	秋草学園短期大学 秋草学園短期大学	○三好 力 大熊 美佳子
PD115	保育者養成における楽器を用いた表現活動について	聖和短期大学 聖和短期大学	○持田 葉子 山内 信子
PD116	保育者養成校の1年次生が「乳幼児期の学び」に対して抱くイメージ(3)	安田女子短期大学 安田女子短期大学	○中村 涼 橋本 信子
PD117	オンラインによる身体表現授業の実践報告～授業から見てきた学生の学びと課題～	千葉明德短期大学 白梅学園短期大学	○田中 葵 佐藤 文
PD118	若者がコミュニケーションにおいて顔を「作る」ことの意味—マスクの顔と‘素’の顔の比較を通して—	東京保育専門学校	高木 麻美子
PD119	保育者の省察に有益な映像記録の方法に関する検討—360度カメラの利用可能性—	川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科	○中川 智之 藤澤 智子 岡正 寛子 松本 優作 種村 暁也 大江 由美 入江 慶太 荻野 真知子 橋本 勇人
PD120	質の高い胸骨圧迫スキルの習得をめざしたプログラムの検討	東海学院大学短期大学部幼児教育学科	高岡 光江
PD121	保育実習における保育「環境」に関する学びの課題 - 実習自己評価と保育記録の実際を視点に -	中村学園短期大学	山田 朋子

ポスター発表 E. 地域子育て支援、保育をめぐる今日的課題など

発表ID

PE101	新任保育者が抱える保護者対応における課題	宮崎学園短期大学	久松 尚美
PE102	多文化保育の実現に向けた対応と課題 —外国にルーツをもつ子どもの保護者を対象にしたインタビュー調査から—	小田原短期大学	谷口 征子
PE103	子育て支援における葛藤の種類とその課題 —保育士のとらえる葛藤事例の分析から—	十文字学園女子大学	亀崎 美沙子
PE104	「現代教育課程への一考察(その4)」 —フレイベル「ブルクドルフのヴァイゼンハウゼンにおける学園の公示」との比較を通して—	甲子園短期大学	馬場 住子
PE105	子育て支援員研修における地域資源の理解と課題	静岡産業大学 川崎医療福祉大学	○田中 卓也 小川 知晶
PE106	愛知県三河地方の就学前における在日ブラジル人の実態に関する研究	岡崎女子大学	白垣 潤
PE107	ICTを活用した子育て支援 —コロナ禍における子育て支援実践の工夫—	皇學館大学教育学部 皇學館大学教育学部 皇學館大学教育学部	○中村 真緒 梶 美保 吉田 直樹
PE108	幼児教育の質向上をめざす学校関係者評価の展開 ～K市における民間幼稚園の組織的な取り組み事例を中心に～	中村学園大学 福岡女学院大学	○那須 信樹 坂田 和子
PE109	共生社会の実現に向けたインクルーシブ保育と保育者養成課程の展望	相愛大学 神戸常盤大学	○直島 正樹 橋本 好市
PE110	外国籍の保護者との相互理解を図るための園の取り組みについて	岡崎女子大学 中部大学	○岸本 美紀 武藤 久枝
PE111	子育て広場における環境構成の工夫について —親子の関係性と親子間の距離との関連から—	東京未来大学	及川 留美
PE112	乳児保育をめぐる今日的課題 —乳幼児の「食」を中心に据えたトータルな育ちの保障に向けて—	尚綱大学短期大学部	増淵 千保美
PE113	感染症予防に関する子どものアサーションの検討	広島大学教育学部	高橋 均
PE114	新しい生活様式における保育者養成 —「会わない交流」から平和を学ぶ—	福山市立大学	大庭 三枝
PE115	保育現場における外国人の子どもへの支援についての一考察	目白大学	岡本 弘子
PE116	コロナ渦の中の手作り造形教材を用いた子育て支援の実践	育英大学	渡辺 一洋
PE117	保育者の職場環境および健康に関する調査研究 —保育・職場環境と早期離職との関係について—	尚綱大学短期大学部 尚綱大学短期大学部	○横山 博之 増淵 千保美

日本保育者養成教育学会 第5回研究大会
広告掲載・出展のご芳名

中央法規出版株式会社 様

株式会社北大路書房 様

株式会社萌文書林 様

学会を開催するにあたり、多大なご支援をいただきました。
心より感謝申し上げます。

2021年3月

日本保育者養成教育学会
会長 小川 清美

新基本保育シリーズ

公益財団法人 児童育成協会=監修

全20巻

B5判/2色刷 セット定価 本体 41,000円(税別)

保育士養成課程の目標と内容をふまえ、保育士として必要な知識と技術を網羅しました。今後さまざまな場で活躍が期待される保育士の養成と質の向上に貢献するためのテキストシリーズ!



巻構成	本体価格(税別)	巻構成	本体価格(税別)
① 保育原理	2,000円	⑩ 子どもの理解と援助	2,400円
② 教育原理	2,000円	⑪ 子どもの保健	2,000円
③ 子ども家庭福祉	2,000円	⑫ 子どもの食と栄養	2,000円
④ 社会福祉	2,000円	⑬ 教育・保育カリキュラム論	2,000円
⑤ 子ども家庭支援論	2,000円	⑭ 保育内容総論	2,000円
⑥ 社会的養護 I	2,000円	⑮ 乳児保育 I・II	2,600円
⑦ 保育者論	2,000円	⑯ 子どもの健康と安全	2,000円
⑧ 保育の心理学	2,000円	⑰ 障害児保育	2,000円
⑨ 子ども家庭支援の心理学	2,000円	⑱ 子育て支援	2,000円
		⑳ 保育実習	2,400円

保育学用語辞典

秋田喜代美=監修
 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター=編著
 本体価格 4,000円(税別) A5判・450頁
 2019年12月発行 ISBN978-4-8058-5936-0



保育学ならびに関連領域において学術的に明らかにされてきた知を整理して掲載。執筆者133名の英知を結集した新時代の共通言語1032語。

発達保育実践政策学 研究のフロントランナー

全3巻(分売不可)

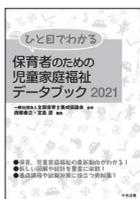
東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター=監修 秋田喜代美=編集代表
 本体価格 10,000円(税別) A5判・946頁(3巻計)
 2021年2月発行 ISBN978-4-8058-8219-1



乳幼児に関する学術研究知見を集約・発展させ、保育の質向上をめざす「関連SEEDSプロジェクト」を書籍化。

ひと目でわかる 保育者のための 児童家庭福祉 データブック 2021

一般社団法人全国保育士養成協議会=監修
 西郷泰之、宮島 清=編集 ISBN978-4-8058-8220-7
 本体価格 1,200円(税別) B5判・94頁 2020年12月発行



保育者養成課程において学生が学ぶべき最新のデータを厳選して掲載。保育・児童家庭福祉分野の学習に最適。

保育内容「環境」 事例と演習でよくわかる

駒井美智子、横山文樹=編著
 本体価格 2,000円(税別) B5判・222頁
 2021年2月発行 ISBN978-4-8058-8277-1



保育士養成および幼稚園教諭養成におけるカリキュラム「保育内容「環境」」対応のテキスト。演習も豊富に収載した。

実習場面と添削例から学ぶ! 保育・教育実習日誌の書き方 改訂版

小泉裕子=編著
 本体価格 2,000円(税別) B5判・164頁
 2020年12月発行 ISBN978-4-8058-8218-4



子どもの活動の捉え方や保育・観察のポイント、実習日誌の書き方を解説。一日の流れにそって、各生活場面の実習日誌の添削例を紹介した。

保育実習指導の ミニмумスタンダード 「協働」する保育士養成 Ver.2

一般社団法人全国保育士養成協議会=編集
 本体価格 3,000円(税別) B5判・204頁
 2018年7月発行 ISBN978-4-8058-5686-4



「保育実習」「保育実習指導」において、全国の保育士養成校の実習指導者が共有すべき標準的事項(ミニмумスタンダード)を解説。

保育園・認定こども園のための 保育実習指導 ガイドブック

増田まゆみ、小櫃智子=編著
 本体価格 2,200円(税別) B5判・162頁
 2018年8月発行 ISBN978-4-8058-5696-3



保育実習指導担当者のための手引書。受け入れ体制づくり、実習指導の基本とともに、実際の指導法を事例を通して具体的に解説する。

これからの時代の 保育者養成・実習ガイド 学生・養成校・実習園がともに学ぶ

大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜=編著
 本体価格 1,800円(税別) AB判・144頁
 2020年12月発行 ISBN978-4-8058-8222-1



実習園の様子から、準備、実習中にすべきこと、日誌の書き方まで、写真とイラストで解説する。養成校や実習園にも役立つ一冊。

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393
http://www.kitaohji.com

新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養 [新版]

二見大介・齋藤麗子編著 A5・212頁・本体1800円＋税
2020年版食事摂取基準や2019年改訂版授乳・離乳の支援ガイドにも対応。子どもの食と栄養の体系的理解と実践化をめざし小児への適切な食事の提供の仕方や、食生活の心の健康の影響など、保育者にとって役立つ内容をわかりやすく取り上げる。

新 保育ライブラリ 社会的養護 I

宮崎正宇・大月和彦・櫻井慶一編著 A5・176頁・本体1800円＋税
子どもが権利主体であることが明示された改正児童福祉法や新しい社会的養育ビジョンの公表等を受け、最新情報を提供。社会的養護の意義や歴史、体系や支援内容、今後の課題をわかりやすく解説。現場を身近に感じられるよう施設での事例も紹介。

世界のESDと乳幼児期からの参画

一 ファシリテーターとしての保育者の役割を探る一
萩原元昭編著 A5・208頁・本体3400円＋税
日本を含む世界8か国の先駆的な事例を紹介。ESDの現状の問題と今後の課題を抽出し、保育者主導の「参加」型ではない、子どもが課題解決に向けて自ら考え行動する「参画」型の取り組みを提案。

特別の支援を必要とする多様な子どもの理解

一 「医教連携」で読み解く発達支援一
長崎大学子どもの心の医療・教育センター監修 吉田ゆり編著 A5・260頁・本体2200円＋税
教職課程コアカリキュラム対応の特別支援教育テキスト。「医教連携」の視点を中心に、子どもを理解・支援するアプローチを探る。教育や子どもの支援に携わる人に最適な1冊。

新 保育ライブラリ 子どもの保健

加藤則子・布施晴美編著 A5・180頁・本体1900円＋税
新保育士養成教科目の内容に完全対応。子どもの心身の健康を守るための保健活動の意義、健康状態の把握と病の予防・対応等、保育士としてまず身につけたい知識・技術をわかりやすく学ぶことができる、養成課程のみならず保育現場でも使いやすいテキスト。

新 保育ライブラリ 子どもの理解と援助

清水益治・無藤 隆編著 A5・164頁・本体1800円＋税
子どもの発達や学びの特徴、子ども理解の視点と方法、その理解に基づいての発達援助のあり方を解説。新保育士養成課程、教職課程コア・カリキュラム「幼児理解の理論及び方法」に対応。

グローバル化とインクルーシブ教育

一 通常学級に在籍する発達障害児にも対応した学校・学級経営一
安藤正紀編著 A5・164頁・本体2000円＋税
児童生徒の知覚レベルの実態把握とICT利用、21世紀型スキルを意識した職業教育、効果的な教育課程づくり等の視点から、豊富な実践事例とともに特別支援教育と通常の教育の一体化を推進するヒントを提供。

多職種連携を支える「発達障害」理解

一 ASD・ADHDの今を知る旅一
土居裕和・金井智恵子編著 A5・248頁・本体2400円＋税
ASD・ADHDを中心に、臨床・支援・研究分野で活躍する執筆陣が、基礎から最新情報までをイラスト付で平易に解説する。各章に練習問題やグループワークを配し、コラムでは執筆者の体験談や当事者の声も紹介。初学者や分野間連携を志す人に。

実習に役立つ表現遊び1・2

岡本弘子編著 各2300円＋税

夜間保育と子どもたち

全国夜間保育園連盟監修/櫻井慶一編集 2000円＋税

発達心理学15講

高橋一公・中川佳子編著 2200円＋税

レッジョ・エミリア保育実践入門

J. ハンドリック編/石垣恵美子・玉置哲洋監訳 2300円＋税

保育における感情労働

諏訪さぬ監修/戸田有一他編著 2200円＋税

シリーズ心理学と仕事 5 発達心理学

太田信夫監修/二宮克美・渡辺弥生編集 2000円＋税

ピアジェに学ぶ認知発達の科学

J. ピアジェ著/中垣 啓訳 2800円＋税

名前のない母子をみつめて

蓮田太二・柏木恭典著 1800円＋税

愛着と愛着障害

V. プライア・D. グレイサー著/加藤和生監訳 2800円＋税

新刊図書

遊びが広がる保育内容のアイデア

西海聡子 編著
B5判 176頁(2色) 1,800円 ISBN 978-4-89347-374-5

子ども家庭支援論

—保育の専門性を子育てで家庭の支援に生かす—
守巧 編著
B5判 184頁(2色) 1,900円 ISBN 978-4-89347-373-8

子どもとかわる人のための心理学

—保育の心理学, 子ども家庭支援の心理学, 子どもの理解と援助への扉—
沼山博・三浦主博 編著
B5判 288頁 2,000円 ISBN 978-4-89347-369-1

子どもの理解と援助

—子どもの育ちと学びの理解と保育実践—
藪中征代・玉瀬友美 編著
B5判 224頁 1,900円 ISBN 978-4-89347-371-4

図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉

直島正樹・河野清志 編著
A5判 212頁(2色) 2,100円 ISBN 978-4-89347-346-2

保育の実践 —愛し、任せ、信じ、見守る

本吉圓子・奥田美由紀 著
A5判 285頁 1,800円 ISBN 978-4-89347-366-0

幼児教育知の探究⑩ 領域研究の現在<健康>

森司朗・青木久子 著
A5判 312頁(上製) 2,500円 ISBN 978-4-89347-115-4

スズ先生と考える 子ども家庭支援の心理学

杉崎雅子 著
B5判 174頁 1,800円 ISBN 978-4-89347-368-4

保育内容 健康 あなたならどうしますか？

酒井幸子・松山洋平 編著
B5判 256頁 1,950円 ISBN 978-4-89347-288-5

<領域>環境ワークブック —基礎理解と指導法—

佐藤純子 編著
B5判 216頁(口絵付) 1,800円 ISBN 978-4-89347-370-7

保育実践に生きる「言語表現」

児童文化財活用のエッセンス
馬見塚昭久 著
B5判 132頁 2,000円 ISBN 978-4-89347-367-7

保育士等キャリアアップ研修シリーズ 6

子育て支援・保護者支援
ポピンズ国際乳幼児教育研究所 監修 徳永聖子・佐藤恵・柏女霊峰 編著
B5判 168頁 1,380円 ISBN 978-4-89347-336-3

高等学校教員のための特別支援教育入門

大塚玲 編著
A5判 164頁 1,800円 ISBN 978-4-89347-362-2

幼児教育知の探究⑩ 領域研究の現在<表現>

山本直樹・太宰久夫・青木久子 著
A5判 346頁(上製) 2,500円 ISBN 978-4-89347-119-2

近刊図書

*近刊の書名、価格その他はすべて予定です。

子育て支援

園川緑・中島洋 編著
B5判 184頁 1,800円 ISBN 978-4-89347-379-0

子ども家庭支援の心理学

藪中征代・玉瀬友美 編著
B5判 208頁 1,900円 ISBN 978-4-89347-372-1

子どもと保育士がつくる哲学の時間

—保育的雰囲気を支える対話的な学びの世界—
佐藤嘉代子 著
A5判 264頁(上製) 3,600円 ISBN 978-4-89347-380-6

保育実践に見られる保育者の
身体的・状況的専門性

古賀松香 著
B5判 400頁 3,300円 ISBN 978-4-89347-375-2

保育者論

関口はつ江・西隆太郎・田中三保子・望月之美
A5判 216頁 1,800円 ISBN 978-4-89347-377-6

幼児の教育原理

請川滋大・高橋健介 編著
B5判 208頁 2,000円 ISBN 978-4-89347-378-3

- 日本の保育の歴史 —子ども親と保育の歴史150年— 汐見稔幸ほか著 2,600円
- 子どもたちからの贈りもの —レゾジョ・エミリアの哲学に基づく保育実践—
カンチエーミ・ジュンコ、秋田喜代美 編著 2,800円
- 倉橋惣三「児童心理」講義録を読み解く 川上須賀子・榎英子ほか著 2,300円
- 玩具福祉の理論と実践 玩具福祉学会「玩具福祉の理論と実践」編集委員会 編集
(委員長 吉田浩) 2,000円

好評既刊

カラー5領域

新訂

事例で学ぶ
保育内容

各巻 2,000円

- <領域>健康 無藤隆 監修/倉持清美 編者代表
- <領域>人間関係 無藤隆 監修/岩立京子 編者代表
- <領域>環境 無藤隆 監修/福元真由美 編者代表
- <領域>言葉 無藤隆 監修/宮里眺美 編者代表
- <領域>表現 無藤隆 監修/浜口順子 編者代表

日本保育者養成教育学会 第5回大会 実行委員会

委員長：岡 健 (大妻女子大学)
委員：池田 りな (大妻女子大学) 委員：石井 章仁 (大妻女子大学)
委員：岩井 真澄 (大妻女子大学) 委員：大西 明実 (大妻女子大学)
委員：小川 清美 (大妻女子大学) 委員：加藤 悦雄 (大妻女子大学)
委員：坂田 哲人 (大妻女子大学) 委員：高橋 ゆう子 (大妻女子大学)
委員：鳥海 順子 (大妻女子大学) 委員：久富 陽子 (大妻女子大学)
委員：宮本 桃英 (大妻女子大学) 委員：加藤 奈保美 (大妻女子大学)

表紙・裏表紙デザイン

金田 卓也 (大妻女子大学) ・ 金井 菜月 (大妻女子大学児童学科4年)

表紙デザインについて

第5回大会にちなみ、コロナのイメージを火・水・木・金・土という自然界の五大元素をシンボライズした5つの花に変えてデザインしました。コロナ・ウイルスも自然の一部であり、コロナとどう向き合うかということは私たち人間の在り方を問われていることでもあるように思います。コロナ禍におけるオンラインによる授業を通してリアリティとは何かということを考えさせられます。



* スマホで QR コードを読み取ると、アクセスしたページで5つの花が AR (Augmented Reality 拡張現実) として現れます。created by palanar.com

iOS 端末：Safari Android：Google Chrome

Mac：Safari, Google Chrome Windows10：Google Chrome

大会運営事務局

名鉄観光サービス株式会社 仙台支店 (担当：植松・志賀)

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4丁目10-3 仙台キャピタルタワー6階

TEL：022-227-3611 FAX：022-261-4623 Email：hoikusyayousei05@mwt.co.jp

Zoom 運営

株式会社東和エンジニアリング (教育ソリューション営業部)

〒101-8631 東京都千代田区東神田1-7-8

TEL：03-5833-8310 FAX：03-5833-8311 URL：<http://www.towaeng.co.jp>